

ブレグジット( Brexit ) の行方

－ 混迷のイギリス －

I. 英国の歴史—議会史

①. 議会発展の要因

1. 王位継承の調整、承認
2. 戦費の調達のための課税 Ex. 十字軍、英仏百年戦争(第1次 1337～1453、  
第2次1689～1815)、etc.
3. (無能な、恣意に走る) 王の権限の抑制機構
4. 宗教問題

②. 統治体制基本原理

1. マグナカルタ(1215)王による財政的搾取の戒め、諸侯の助言の無い軍役代納金や援助金禁止 (大憲章) 教会の権利の保障。コモンロー(古くからの慣習法)による人民の権利保護
2. 権利請願(1628) 議会の同意の無い課税、国王の政策に応じないものの逮捕、地主貴族らの邸宅に軍隊の宿泊の強制等の禁止。
3. 権利章典(1689) 臣民の権利と自由を宣言、王位の継承を規定。
4. 王位継承法(1701) カトリック教徒のイングランド王即位禁止。王族のカトリックとの結婚禁止。
5. 議会法(1911) 予算案や課税など金銭に関わる法案は貴族院で否決されても庶民院通過で成立。金銭以外の法案は、貴族院で否決されたとしても、庶民院を3会期通過で成立。庶民院議員の任期を7年から5年にする。

③ 特徴

1. コモンロー④—慣習法 (1154) どの自由人も正当な法的判断と手続きなしに逮捕投獄無
2. 2院制(1350)  
貴族院— the House of Lords(司教、修道院長、貴族—公、侯、伯、子、男)  
庶民院— the House of Commons (騎士、地方のジェントリー—郷紳、中小地主層—、  
ヨーマン—独立自営農民) 定期的に代表の選出
3. 2大政党 (1660)  
トーリ Tory(アイルランドの盗賊)—国王とイングランド国教会が国民統合の上で果たす役割重視  
ホイッグ Whig(スコットランドの馬泥棒、暴徒)—王権制限、議会主権、宗教的寛容を主張。
4. 選挙法改正 第1次(1832)～第5次 (1928)
5. 立憲君主制 → 立憲民主制

年	国王	出来事
B. C. 2000頃		ビーカー人—青銅器文化
600頃		<u>ケルト</u> の部族の定住—鉄器文化
55～AD409		カエサルの上陸, <u>ローマ帝国</u> の進攻、ミニローマ化
400前半		<u>ゲルマン</u> (アングル人、サクソン人、ジュート人)渡来

600初頭		アングロサクソンの国々の7王国の始まり
830		<u>デーン人の侵略</u>
871	アルフレッド	7王国の1国(ウェセックス) 法典編纂、州制の誕生、単一貨幣
924	アゼルスタン	<u>賢人会議(議会の起源)一司教、有力貴族、豪族</u>
1066	ウイリアム1世	<u>ノルマン王朝誕生</u> 。アングロサクソン豪族の反乱一鎮圧
	(ギョーム)	共通語はフランス語、英語は非公式 <u>賢人会議の継続</u>
1096	ウイリアム2世	第1回十字軍派遣
1100	ヘンリー1世	<u>行政・財政・司法の統治機構の整備</u> アングロ=ノルマン王国
1154	ヘンリー2世	アングロノルマン+アンジュー+アキテーヌ。プランタジネット アイルランド制服(征服・統治の極意)
1215	*ジョン王	<u>マグナカルタ(大憲章)</u> ノルマンディを失う、ローマ教皇と対立
1225	ヘンリー3世	<u>諸侯大会議(Parliament)一英国議会政治の礎</u> 政治の諸事について国王が相談。
1295	エドワード1世	<u>模範議会(model parliament)</u> 一聖職諸侯、世俗諸侯、州から2 名騎士、都市から2名の市民。フランス他と相次ぐ戦。財政困窮。
1337	エドワード3世	英仏戦争開始(~1453) ガーター騎士団創設(1348)
1350		<u>2院制の始まり一貴族院。庶民院</u>
1415	*ヘンリー5世	仏軍に勝利。議会国王に終生関税、直接税承認
1445	*ヘンリー6世	バラ戦争(~1485) ランカスターとヨークの争い
1485	ヘンリー7世	チューダー王朝。貴族院、庶民院双方王位承認
1529	*ヘンリー8世	王妃(スペインカール5世の叔母)との離婚の為、議会召集
1534		英国国教会成立。修道院の解散
1558	エリザベス1世	貴族院(76名+ $\alpha$ )、庶民院(462名)
1603	ジェームズ1世	「国王と議会が絶対的な存在」と宣誓。平和王
1628	チャールズ1世	戦争王。「権利の請願」議会の承認なしに課税などの禁止
1642		清教徒革命(国王と庶民院改革派との争い。)

\* シェイクスピア作品有

1649	(クロムウエル)	国王斬首。 <u>国王と貴族院廃止</u> 。共和政宣言
1651		クロムウエル軍、スコットランドに勝利。アイルランドの土地40% イングランドのものに。護国卿体制。(1653~58)
1660	チャールズ2世	王政復古。騎士議会(貴族院147、庶民院507一大半旧国王派 王位継承問題から史上初政党一トーリーとホイッグ誕生
1685	ジェームズ2世	カトリック王。王位継承排除危機。
1689	ウィリアム3世 (オランダ総督)	チャールズ2世の長女メアリーの夫、オランダ総督ウィレムと議会有力者 が結託。精鋭のオランダ軍とウィレムがイングランドに上陸。国王逃亡。 <u>名誉革命</u> 。 <u>権利の章典</u>
1701		<u>王位継承法制定</u> 。

1707	アン女王	イングランドとスコットランド合邦。 グレート・ブリテン連合王国
1713		ユトレヒト条約(スペイン王位継承戦争に参戦、ジブラルタル獲得)
1715	ジョージ1世	ジェームス1世の孫娘の長男。ホイッグ党優勢
1721	(ハノーバー王朝)	ロバート・ウォルポール第一大蔵卿から「首相 prime minister」に。
		21年間庶民院議員として政権を率いた。庶民院の発言力増す。
1757	ジョージ2世	大ピット國務相に。世界各地でフランスに勝利(植民地戦争)
1760	ジョージ3世	庶民院の選挙制度改革要求。 産業革命の始まり。トーリー優勢
1783		アメリカ13州の独立。 フランス革命(1789) イギリス豊富な軍資金
1800		アイルランド議会イギリス議会に吸収。…及びアイルランド連合王国
1815		ワーテルローの戦い。イギリス側勝利。1688年からの第2次英仏百年戦争終結。議会による豊富な軍資金。 ヨーロッパ最強国の仲間入り
1832	ウィリアム4世	第1次選挙法改正⑧。下層中産階級戸主に選挙権
1859	ヴィクトリア女王	ホイッグ、ピール派、 <u>急進派自由党結成</u> 。パーマストン首相
1867		第2次選挙法改正。都市の労働者階級戸主に選挙権拡大
1868		自由党グラッドストーン政権誕生。新聞、雑誌の普及。小学校教育義務化
1874		保守党 Дизレーリー政権誕生。トーリー民主主義。帝国主義推進
1884		第2次グラッドストーン政権。第3次選挙法改正。地方の労働者階級戸主に選挙権。アイルランド自治権付与を希求、実現せず(1886)
1892		スコットランド炭鉱夫出身ジェームズ・ハーデイ当選。独立労働党結成

\* 「不実のアルピオン(白い島)」 - 17世紀フランスの司教の言ったとされる言葉。大陸の同盟者を裏切り美味しいところを掻っ攫っていくイギリスをこのように表現。

\* 1889年同盟を求めるドイツのビスマルクに対してイギリスのソールズベリー首相。

「議会政治に立脚するイギリスでは同盟というのは難しい。残念ながら我々はピットの時代にはいない。当時は貴族政治の全盛期で、我々はヨーロッパでも積極的な政策を展開できた。…今やこの国は民主政治の国なのです。」

\* 「栄光ある孤立」Splendid Isolation - 19世紀後半に於けるイギリス帝国の非同盟政策を象徴する言葉。1896年カナダ議会で、イギリスは外交的に孤立していることは光栄であり、カナダ自治領はイギリス本土を断固支持するという主旨で用いられた。

1901		ヴィクトリア女王逝去。大英帝国、世界の陸地の5分の1以上占有。
1904	エドワード7世	英仏協商締結。植民地戦争に終止符
1906		議会政党として <u>労働党議席30獲得</u>
1911	ジョージ5世	議会法制定
1914		第1次世界大戦。アスキス首相からロイド・ジョージへ(1916)
1918		11月11日ドイツ降伏。第4次選挙法改正。21歳以上の成年男子全て、30歳以上の女性に選挙権。ロイド・ジョージ政権。自由党分裂
1921		アイルランド26州「アイルランド自由国」。北部6州ベルファストに議会
1924		<u>労働党政権英国史上初めて誕生</u> 。ラムゼイ・マグドナルド首相

1928		第5次選挙法改正。30歳以上の年齢制限撤廃。男女普通選挙権成立
1934		SNP(スコットランド国民党)結党
1936	エドワード8世	国王を自ら退位。ウォリス・シンプソンと結婚。
1937	ジョージ6世	ネヴィル・チェンバレン首相の宥和政策と失敗。
1938		第2次世界大戦。国民生活窮乏
1940		ウィンストン・チャーチル首相就任。労働党クレメント・アトリー副首相
1944		6月6日ノルマンディ上陸作戦成功。ヤルタ会談(45)
		10年ぶりの総選挙。労働党圧勝。アトリー首相
1946		国民保険法。国民保健サービス法。象徴的社会福祉制度スタート 民間企業の国有化(電信、電話、航空、運輸、ガス、電力…)
1948		3つの輪(米国、旧英連邦諸国、欧州)の真ん中に英国有(チャーチル)
1949		アイルランド自由国はアイルランド共和国となる。
1952	エリザベス2世	

\* アトリー首相、「国民投票などという外国生まれの制度を我々の伝統的な国民生活に持ち込むのは無理だ。」(1945)

## II. 今日の英国議会

1. 議会主権—執政(内閣)優位
2. 下院(庶民院)の優位 — 1911年 の議会法は、1949年に貴族院の一時停止的拒否権を最大1年に短縮。予算に関わる法案は貴族院の反対があっても1ヵ月後に成立。  
首相は下院の多数派によって選ばれる。
3. 2大政党+小政党  
保守党、労働党、自由民主党、UKIP, SNP, 緑の党  
SNPの台頭—スコットランド分権法の住民投票(1979)—否決  
イギリスからの独立を問う住民投票(2014)—否決  
UKIP(英国独立党)—マーストリヒト条約(1993)を引き金にヨーロッパ懐疑主義の広がりにより結党。
4. 小選挙区制 得票率の差は僅かでも、議席数の差は大きくなる。

### 2015年 イギリス総選挙結果

政党	得票率 (増減) (%)	議席数 (増減)
保守党	36, 9 (+0, 8)	331(+24)
労働党	30, 4(+1, 5)	232(-26)
自由民主党	7, 9(-15, 2)	8(-49)
UKIP(英国独立党)	12, 6(+9, 5)	1(+1)
SNP(スコットランド国民党)	4, 7(+3, 1)	56(+50)
緑の党	3, 8(2, 8)	1(0)

5. 政党内の一体性の弱体化  
政策決定は内閣の決定。党内には様々な潮流が存在。
6. 国民投票、住民投票への依存。

### Ⅲ. EU とイギリス

1. ヨーロッパ懐疑主義—ヨーロッパに対するアイデンティが弱い。EU の制度に対して信頼性が低い。

EC 初期段階において、労働党は市場統合反対者多数。(1975国民投票)

経済統合のみならず連邦国家機構を目指すことによる国家主権の制限への拒否(1988サッチャーブルージュ演説)。マーストリヒト条約(1993)により更に疑問視。ERM(為替相場メカニズム)の基で為替相場の変動幅を一定の枠内に収めるのに失敗。「ブルージュグループ(EU懐疑派)」の組織化。UKIP(英国独立党)結党。労働党ブレア首相初期親EU。ブラウン首相リスボン条約(2007)署名に遅れ、後に一人で署名。キャメロン政権下保守党内のヨーロッパ懐疑派75%にもなったと(推定)され、国民投票に追い込まれた。

2. 2016年国民投票の投票状況(%)

	残留	離脱
全体	48	52
男性	48	52
女性	48	52
18—24歳	73	27
25—34歳	62	38
35—44歳	52	48
45—54歳	44	56
55—64歳	43	57
65歳以上	40	60
管理職・行政職・専門職	57	43
事務職・下層管理職	49	51
熟練肉体労働者	36	64
非熟練労働者・非正規労働者・その他貧困層	36	64
保守党支持者	42	58
労働党支持者	63	37
自由民主党支持者	70	30
UKIP(英国独立党)支持者	4	96

出所 Michael Ashcroft (2016)

3. ヨーロッパ議会選挙(2019年5月) 英国政党議席数

- ① ブレグジット党 28 ② 自由民主党 15 ③ 労働党 10  
④ 緑の党 7 ⑤保守党 3

年	英国首相	出来事(英国)	EU の出来事
1951	アトリー(労働党)		*ECSC(欧州石炭鉄鋼共同体設立)
1956	イーデン(保守党)	スエズ危機(軍事行動批判)	
1957	マクミラン(保守党)		*EEC 説立
1961	マクミラン	EEC 加盟失敗	ド・ゴール英国加盟拒否
1967	ウィルソン(労働党)	*EC 加盟失敗	アメリカの影響力を嫌う

1973	ヒース(保守党)	EC 加盟。石油危機、政治不信	
1975	ウィルソン(労働党)	* 国民投票(EC 残留67, 2%) で残留。労働党左派と保守党右 派が、EC 脱退を議会内で叫 び、実施。	
1982	サッチャー(保守党)	フォークランド戦争	
1984		国有企業の民営化	
1986			単一欧州議定書調印(市場統一)
1988		サッチャーのブルージュ演説。 連邦国家的機構を目指す議論 に反論。	
1989		自由民主党結成(労働党から離 脱した社会民主党+自由党)	
1990		人頭税導入、サッチャー退陣	
1992	メージャー(保守党)	ポンド危機、*ERM 離脱	
1993		*UKIP(英国独立党)結党	*マーストリヒト条約調印 *EU 設立
1997	ブレア(労働党)	スコットランド・ウェールズ議会 設置	
1999			ユーロ導入
2003		イラク戦争(アメリカに全面協力)	
2007	ブラウン(労働党)	リスボン条約書名	*リスボン条約調印
2010	キャメロン(保守党)	保守党と自由民主党との連立	ギリシャ危機、福祉削減
2014		スコットランド独立の住民投票	
2016		国民投票によりEU 離脱	

\* ECSC European Coal and Steel Community

\* EEC European Economic Community

\* EC European Community \*ERM exchange rate mechanism

\* マーストリヒト条約—通貨をユーロに統合、共通の外交・安全保障や

司法・内務の協力へと統合を進め、欧州連合を創設することに決定。経済統合から政治統合へ

\* UKIP(英国独立党)United Kingdom Independence Party—マーストリヒト条約(1993)を引き金に

ハードなヨーロッパ懐疑主義を掲げる。特に移民問題に強硬な姿勢。

\* EU 設立 European Union—イギリスは通貨統合や社会条項の一部を除外。

\* リスボン条約—EU 大統領(ヨーロッパ理事会の常任議長)を置く。ヨーロッパ議会の権限強化。

#### 参考文献

1. イギリスとヨーロッパ 細谷雄一(編) 勁草書房
2. 物語 イギリスの歴史(上・下) 君塚直隆著 中公新書
3. 分解するイギリス 近藤康史著 筑摩新書

2019年 3月末までに離脱協定案の議会承認得られず、10月末日まで延期される。

6月7日 メイ首相辞任表明。離脱協定案の修正案—2度目の国民投票、アイルランドの国境問題で関税同盟参加を促す項目—に閣僚からも反発。下院院内総務辞任。

6月13日 10人の候補者が出揃ったが、その内3名は16人以上の支持者を集められず7名が残る。

6月18日 第2回投票。 1. ボリス・ジョンソン 126 2. ジェレミー・ハント 46

6月20日 第5回投票 1. ボリス・ジョンソン 160 2. ジェレミー・ハント 77

3. マイケル・コーブ 75 (上位2名で保守党員による決戦)

7月23日 保守党員約16万人による投票で、ボリス・ジョンソンかジェレミー・ハントの何れかに決定。現時点でボリス・ジョンソン優位との報道。

ボリス・ジョンソンの離脱に関する意向。

EUとの再交渉を望むが、新たな離脱条件で合意できなくても10月末日に離脱。EUからより良い条件を引き出す為、390億ポンドの手切れ金の支払は留保。北アイルランドとの国境問題では、アイルランドとの開かれた国境を保つ為英国全体がEU関税同盟に残るとする現在の非常措置は削除する。代替案は将来の貿易協議とセットで解決する目論見。合意なき離脱も辞さない考え。